

2019年度

国際日本学部演習案内

School of Global Japanese Studies

Seminar Syllabus

明治大学

Meiji University

目 次 /Contents

1. ゼミナール（演習）とは何か / What is zemi?	2
2. 演習入室試験について（日本語版）	
選考試験日程	4
選考試験受験上の注意	6
選考試験申込手続	7
3. Screening Information (in English)	
Screening Schedule	9
Important Notes	11
Application procedure for the Screening	12
4. 2019 年度国際日本学部演習担当教員一覧/List of Seminar lecturer in AY2019	14
5. 演習概要（教員別） / Seminar syllabus	
01 ヴァシリエク, スヴェトラナ/VASSILIOUK, Svetlana	15
02 大須賀 直 子 /OSUKA, Naoko	16
03 尾 関 直 子 /OZEKI, Naoko	17
04 岸 磨貴子 /KISHI, Makiko	18
05 金 ゼンマ /KIM, Jemma	19
06 小 林 明 /KOBAYASHI, Akira	20
07 小 森 和 子 /KOMORI, Kazuko	21
08 佐 藤 郁 /SATO, Iku	22
09 白 戸 伸 一 /SHIRATO, Shin-ichi	23
10 鈴 木 賢 志 /SUZUKI, Kenji	24
11 瀬 川 裕 司 /SEGAWA, Yuji	25
12 田 中 牧 郎 /TANAKA, Makiro	26
13 旦 敬 介 /DAN, Keisuke	27
14 張 競 /CHO, Kyo	28
15 長 尾 進 /NAGAO, Susumu	29
16 沼 田 優 子 /NUMATA, Yuko	30
17 萩 原 健 /HAGIWARA, Ken	31
18 藤 本 由香里 /FUJIMOTO, Yukari	32
19 眞 嶋 亜 有 /MAJIMA, Ayu	33
20 馬 定 延 /MA Jun-Yeon	34
21 溝 辺 泰 雄 /MIZOBE, Yasuo	35
22 美濃部 仁 /MINOBE, Hitoshi	36
23 宮 本 大 人 /MIYAMOTO, Hirohito	37
24 森 川 嘉一郎 /MORIKAWA, Kaichiro	38
25 師 井 勇 一 /MOROI, Yuichi	40
26 山 脇 啓 造 /YAMAWAKI, Keizo	41
27 欠————番 /BLANK NUMBER	42
28 渡 浩 一 /WATARI, Koichi	43
29 ワルド, ライアン /WARD, Ryan	44

ゼミナール（演習）とは何か

国際日本学部長
鈴木 賢志

ゼミとは何でしょう。正直なところ、この学部で教え始めたばかりのころ、私はよく分かっていませんでした。実は、私は自分の学生時代にゼミという形式の授業を半年しか受けたことがありません。その時は先生の著書を分担して読み、それに関連してそれぞれ調べたことを発表するというものでした。その後、私は長らく海外の大学で過ごしましたが、学生としても教員としても、ゼミという形式の授業を経験することはありませんでした。ゼミというスタイルは、国際的にはかなり特殊な学びの形なのです。帰国して明治大学国際日本学部で教えるようになり、初めてゼミの学生の募集案内を書いた時には、ずいぶん悩みました。日本での教育経験が長い何人かの先生に「ゼミって、何をすれば良いのでしょうか」と聞いてみると、「君のやりたいようにやればいいんだよ」と、何とも答えになっていないような答えが返ってきて、途方に暮れてしまったことをよく覚えています。

それから長い月日が経ち、今年はどうとう 10 回目の募集となりました。これまでの試行錯誤と経験によって分かったのは、やはり結局は「やりたいようにやればいい」なのだ、ということでした。すなわち、一人一人の教員が、それぞれの専門的な見地から自分が最も有益であると信ずる教育を行うことが、学生のみなさんが充実した学びを得るための最善の方法だということなのです。

ただし、いくら教員が手をつくしても、みなさんが待ちの姿勢で「学ばせてもらう」のを待っているのでは、2年かけても何も得られません。ゼミが少人数であることの利点は、きめ細かく教えてもらえることだけではありません。あなたがどのような興味関心を持って、その教員から何を教わりたいのかを、しっかりと伝える機会を得られるということなのです。そして、それはあなた自身がしっかり考えなくてはならないことです。

なお、ゼミは個人ではなくグループで活動することも忘れてはなりません。そのことは、時としてあなたの行動を制約することになるかもしれません。けれども互いに協力し、切磋琢磨し合うことで得られるものは非常に大きいのです。さらにゼミを通じて得られるつながりは、将来にわたって続く、かけがえのない財産となります。

本学部の多くの皆さんが、ゼミを通じて新しい学びを体得し、また新しい出会いを育むことができるよう、心から願っています。

What is zemi?

Kenji Suzuki

Dean, School of Global Japanese Studies

What is zemi? To be honest, I did not have the answer when I started to teach at this School. In fact, I took a zemi class for only one semester when I was a student myself. At that time, we merely read a book of the teacher and presented a research only in brief. I was at non-Japanese universities thereafter, and I had no zemi either as a student or as a teacher. After all, zemi is very unique of Japan. When I came back to Japan to teach at this School, I had no experience of zemi. Hence it was very difficult for me to write a syllabus of zemi. I remember that I asked my older colleague what I should do for zemi, and that the answer was “You can do whatever you like” - I was at a loss in the end.

Long time has passed since then, and this is the 10th time of our zemi guidance. After many trials and errors and various experiences, I have now concluded that it is best to do whatever I like. I now believe that it is best for our teachers, as highly qualified experts of their own fields, to do whatever they like, so that they can provide the best education for the students.

However, you cannot get anything, even taking two years, if you just wait “to be learned”. Zemi is composed of a small number of students, and that is beneficial to you not only because you are cared more in class, but also because you have more chances to express what you are interested and what you expect to learn. Of course, you have to prepare yourself for that.

Having said that, you have to remember that zemi acts as a group, and that is not an individual lesson. That might be a restrict at times, but you may well gain valuable experiences from cooperation and mutual development by various group-based activities.

I sincerely hope that many of you at this School will learn new things and meet many new people with zemi, which help you develop even further.

2. 演習入室試験について（日本語版）

選考試験日程

1 演習入室選考試験ガイダンス動画/演習紹介動画 配信

日程：9月18日（火）～

方法：[WEB 配信](#)

2 演習入室選考試験関連ガイダンス

（1）申込手続ガイダンス

日時：9月25日（火），9月27日（木）12：40～

会場：高層棟304教室

（2）ゼミナール協議会（ゼミ協）による演習個別ガイダンス

日程：10月1日（月）～10月5日（金）

備考：各演習の実施日時・会場は後日 Oh-o!Meiji で
お知らせします。

（3）演習担当教員による演習個別ガイダンス

（ア）1次募集

日程：10月8日（月）～10月12日（金）

備考：各演習の実施日時・会場は後日 Oh-o!Meiji でお知
らせします。担当者によっては個別ガイダンスへ
の参加を必須としている場合があります。

（イ）2次募集

日程：11月8日（木）～11月14日（水）

備考：募集する演習担当者，実施日時・会場は1次募集
合格発表時にお知らせします。担当者によっては
個別ガイダンスへの参加を必須としている場合が
あります。

3 入室選考試験

（1）一次募集

①申込受付 10月13日（土）10：00～10月17日（水）12：00

[申込方法] Oh-o! Meiji ポータルページのアンケート機能

②選考試験 10月27日（土）10：00～

[試験会場] Oh-o! Meiji で確認すること

③合格発表 10月30日（火）13：00

[発表場所] Oh-o!Meiji で配信します。

(2) 二次募集

- ①申込受付 11月 8日(木) 10:00～11月16日(金) 12:00
[申込方法] Oh-o! Meiji ポータルページのアンケート機能
- ②選考試験 11月24日(土) 10:00～
[試験会場] Oh-o! Meiji で確認すること
- ③合格発表 11月27日(火) 13:00
[発表場所] Oh-o!Meiji で配信します。

(3) 三次募集

- ①申込受付 事前の申し込みは不要です。二次合格発表時に選考試験の概要をお知らせしますので、その指示に従ってください。
- ②選考試験 11月28日(水)～12月4日(火)の期間中いずれか1日
[試験会場] 日程及び会場の詳細は二次合格発表時お知らせ
- ③合格発表 各演習の担当者に試験当日に確認してください。

4 留学に参加している学生日程等について

2年次秋学期/3年次春学期に留学している場合でも、留学しない他の学生と同じ日程および方法で手続きを行う必要がありますので注意してください。また、試験や申込受付等の時間はすべて「日本時間」を基準に行われます。十分に注意してください。

2年次秋学期に留学に参加し、教員による演習個別ガイダンスに参加できない場合は、後日教員のメールアドレスを提供します。希望する演習担当教員へ各自、演習個別ガイダンス期間内に E-mail 等で個別ガイダンス実施の依頼をしてください。

入室試験は各演習担当教員が個別に実施します。なお、試験については留学しない学生と同じ日程で実施する予定ですが、時差等による配慮を希望する場合は、E-mail 等で演習担当教員へ各自、依頼をしてください。

2. 演習入室試験について（日本語版）

演習入室試験受験上の注意

受験にあたっての注意事項は以下のとおりです。

- 1 各演習の募集人員は、10～21名です。
- 2 入室試験の申し込みは、Oh-o!Meiji ポータルページに配信されるアンケートを利用して、各期限内に手続きをしてください。（但し三次試験は別）。
詳細は7ページ以降を確認してください。（締切厳守。期限を過ぎた場合、申し込みをすることはできません。）
- 3 演習入室試験日程等演習に関係する重要なお知らせはすべて Oh-o!Meiji ポータルページへ配信します。演習入室試験実施期間中は、随時確認するようにしてください。
- 4 受験後に演習を変更することはできません。
- 5 同一募集期間内に複数の演習を受験した者は、すべて無効（不合格）となります。
- 6 合格が決定した者は、それ以降の受験資格を失います。ただし、4月に募集する演習への入室試験に限り、既に合格が決定した演習の担当教員の了承を得たうえで、受験することが認められます。
- 7 4月に募集する演習に入室を希望する場合も今回の演習入室試験を受験することは原則可能です。ただし、もし今回の演習入室試験に合格した上で4月に募集する演習を受験するためには、既に合格が決定した演習の担当教員の了承を得なければなりません。
4月に募集する新任教員等の演習入室試験の受験を希望している場合は、今回受験する予定の教員に、個別ガイダンス等を利用して、事前にその受験の可否について必ず確認して下さい。
- 8 担当者の都合で3年次のみ開講する場合があります。対象となる演習はガイダンスでお知らせします。

2. 演習入室手続（日本語版）

選考試験申込手続きについて

入室試験（一次・二次）の申し込みは、Oh-o! Meiji ポータルページに配信されるアンケートを利用して行います。申込手続き方法は以下のとおりです。

- 1 「Oh-o! Meiji システム」(https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index) のポータルページへログインしてください。Oh-o! Meiji システムのポータルページへのログインには、共通認証パスワードが必要になります。忘れてしまった場合は速やかに事務室窓口にて再発行の手続きをしてください。電話による再発行の問い合わせは受け付けません。
- 2 自身のポータルページが表示されます。受付期間になったら、アンケート「2019年度演習入室試験一次申込手続き」を選択してください。

The screenshot shows the Oh-o! Meiji portal interface. At the top, there are navigation tabs: HOME, クラスウェブ, 授業検索, グループ, and ポートフォリオ. Below the navigation, there are several sections: a calendar for June 2017, a '個人宛・所属事務室からのお知らせ' (Notice from individual/department) section with a link to '海外トップユニバーシティ留学奨励助成金について', a '授業に関するお知らせ' (Notice regarding classes) section, and an 'アンケート' (Survey) section. The 'アンケート' section is circled in red and contains a survey titled '2018年度演習入室試験一次申込手続き' (2018 Academic Practice Room Exam First Application Procedure) with a 'NEW' tag and a response deadline of 2017/07/21. To the right, there are sections for 'Meiji Mail' and 'RSSリーダー' (RSS Reader) with news items from Meiji University.

- 3 「2019年度演習入室試験一次申込手続き」の画面が表示されますので、必要情報を全て入力してください。

ME > アンケート回答 > トップ

2019年度演習入室試験一次申込手続き(20180820)	
回答期間	
記名・無記名	記名式アンケート
回答の修正	可
氏名	
回答日時	未回答

登録部署: 中野教務事務室

設問1 学年を選択してください。
Please select your year. **[必須]**

4 すべて入力したら、「確認画面に進む」を選択してください。※まだ申込完了ではありません。

設問6	あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？ ※ この項目は入室試験には影響されません。 How did you check the seminar introduction? * This questionnaire is not effect to the screening result. [必須]
	<input type="radio"/> 見ていない / I did not check any introduction. <input type="radio"/> 個別説明会（オフライン） / Orientation by instructor (Off-line) <input checked="" type="radio"/> ホームページ（オンライン） / Homepage (On-line) <input type="radio"/> 個別説明会・ホームページ両方 / Both

上記内容でよろしければ「確認画面に進む」ボタンをクリックして次に進んでください。

[保存せずに前の画面に戻る](#) [確認画面に進む](#)

5 入力内容の確認画面が表示されますので、必ず入力内容を再度、確認してください。問題がなければ「回答する」をクリックしてください。入力内容に修正を加える場合は「前に戻る」を選択し、修正してください。

設問6	あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？ ※ この項目は入室試験には影響されません。 How did you check the seminar introduction? * This questionnaire is not effect to the screening result. [必須]
	ホームページ（オンライン） / Homepage (On-line)

[← 前に戻る](#)

[回答する](#)

Page Top

入力内容確認画面を確認後、「回答する」をクリックすれば、申込完了です。

※申込内容は期間内であれば修正することができます。

※上記は一次申込手続きを例に挙げましたが、二次申込手続きも同様の手続きとなります。

※三次試験については申込方法が異なります。二次試験合格発表時に発表される三次募集選考試験の指示に従ってください。

3. Screening Information

Screening Schedule

1 Seminar Screening Guidance (online video guidance)

Date : September 18th (Tue)~

Notes : Check the [website](#).

2 Seminar Guidance

(1) Application Guidance

Date and Time : September 26th (Wed),12:40 pm

Venue : Room 304

Note: Conducted in English

(2) Seminar Introduction by students

Date : From October 1st (Mon) to October 5th (Fri)

Note : The details will be announced by the Oh-o! Meiji portal system.

(3) Seminar Introduction by instructor

① 1st batch

Date : From October 8th (Mon) to October 12th (Fri)

Note : The details will be announced by Oh-o! Meiji system.

For some seminars, participation to the individual guidance is mandatory

② 2nd batch

Date : November 8th (Thu)~ November 14th (Wed)

Note : The details including instructors, time, date, and venue will be announced at the same time as the results for the 1st batch. For some seminars, participation to the individual guidance is mandatory.

3 Seminar Screening

(1) 1st batch

① Application Period: October 13th (Sat) 10am~ October 17th (Wed) 12pm

*Application method: through Oh-o! Meiji portal system

② Screening: October 27th (Sat) 10am

*The venue will be announced through Oh-o! Meiji portal.

③ Announcement of screening result: October 30th (Tue) 1pm

*The results will be announced by Oh-o! Meiji portal.

(2) 2nd batch

① Application Period: November 8th (Thu) 10am ~ November 16th (Fri) 12pm

*Application method: through Oh-o! Meiji portal system

② Screening: November 24th (Sat) 10am

*The venue will be announced through Oh-o! Meiji portal.

③ Announcement of screening result: November 27th (Tue) 1pm

*The results will be announced by Oh-o! Meiji portal.

(3) 3rd batch

Application and Screening period: November 28th (Wed) ~ December 4th (Tue)

* Pre-registration is not required

* Seminar for 3rd batch screening will be announced at the same time as 2nd batch results.

3. For students participating in Study Abroad Program

- Students participating in studying abroad program in 2nd year's Fall Semester / 3rd year's Spring Semester are also required to apply with the same schedule and method as other students. Also, the time and date of application and screening will be based on "Japan standard time".
- Students who cannot participate in the seminar introduction by instructor by due to reason why participate in the 2nd year's fall semester, Nakano Academic Affairs Office will provide the instructor's e-mail address. Please request to the instructor for individual guidance by e-mail etc. by the designated period.
- Each instructor will conduct screening in an individual method. The screenings are scheduled to be carried out on the same schedule (time) as students who do not participate in the study abroad program. However if you wish your time-zone, etc. to be considered, please contact each instructor by E- mail.

2. Screening Information

Important Notes

Be sure to read following announcement carefully before you apply for the seminar.

- 1 The number of students to be accepted in each seminar is 10 to 21 students.
- 2 To apply for a screening (1st & 2nd batch), **apply through Oh-o! Meiji system during the designated period.** Applications which arrive after the due date cannot be accepted.
- 3 All information will be notified through “Oh-o! Meiji” portal system. Please check it regularly
- 4 Changes or cancelations cannot be accepted after the end of the designated application period.
- 5 If a student takes more than one screening in a single batch, all results will be judged as invalid.
- 6 Students who passed a screening would lose their qualification to apply for another seminar in the following batch. However, you are able to apply for the screening for new seminars in April. In case you wish to apply for new seminar in April, you need to obtain approval from the instructor who conducted screening in the last fall semester.
- 7 It is possible to apply for the screening in the fall semester even if you wish to participate in the seminar which conducts a screening in April, upon approval of the instructor of the current seminar. If you are planning to apply for a new seminar in April, make sure to confirm in advance with the instructor of the seminar you will apply to, whether it will be permitted or not.
- 8 There will be seminars which are held only for the third year (2 semesters). These seminars will be announced later at the orientation.

3. Screening Information

Application procedure for the Screening

You can apply for the seminar screening for 1st and 2nd batch with the Questionnaire in the Oh-o!Meiji Portal System. The details are as below.

- 1 You need to log in the Oh-o! Meiji system “https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index”.
- 2 You can choose [2019 年度演習入室試験一次申込手続き] (Application for Seminar Screening 2019) and go on to the next page.

The screenshot shows the Oh-o!Meiji Portal System homepage. The navigation bar includes HOME, クラスウェブ, 授業検索, グループ, and ポートフォリオ. The main content area is divided into several sections: a calendar for June 2017, a '個人宛 所属事務室からのお知らせ' (Personal notices from the department office) section with a notice about the '海外トップユニバーシティ留学奨励助成金' (Overseas Top University Scholarship), a '授業に関するお知らせ' (Notices about classes) section, and a 'その他大学からのお知らせ' (Other university notices) section. On the right, there are sections for 'Meiji Mail' and 'RSSリーダー' (RSS Reader) with news from Meiji University. The 'アンケート' (Survey) section is circled in red, highlighting the '2018年度演習入室試験一次申込み手続き' (Application for Seminar Screening 2018) survey, which is marked as 'NEW' and has a response deadline of 2017/07/21.

- 3 Please fill out the required information in the [2019 年度演習入室試験一次申込手続き].

ポータルHOME > アンケート回答 > トップ

The screenshot shows the '2019年度演習入室試験一次申込手続き(20180820)' questionnaire form. The form includes the following fields:

回答期間	
記名・無記名	記名式アンケート
回答の修正	可
氏名	
回答日時	未回答

登録部署: 中野教務事務局

設問1 学年を選択してください。
Please select your year. **[必須]**

- 4 After you complete all questions, choose[確認画面に進む](Next) bottom. (You have not finished yet.)

設問6 あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？
※ この項目は入室試験には影響されません。

How did you check the seminar introduction?
* This questionnaire is not effect to the screening result. **[必須]**

見ていない / I did not check any introduction.
 個別説明会（オフライン） / Orientation by instructor (Off-line)
 ホームページ（オンライン） / Homepage (On-line)
 個別説明会・ホームページ両方 / Both

上記内容でよろしければ「確認画面に進む」ボタンをクリックして次に進んでください。

[保存せずに前の画面に戻る](#) [確認画面に進む](#)

- 5 Please make sure to re-check your answers in the screen. If something is wrong, choose [前に戻る](Back). If everything is Ok, choose [回答する](Submit).

設問6 あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？
※ この項目は入室試験には影響されません。

How did you check the seminar introduction?
* This questionnaire is not effect to the screening result. **[必須]**

ホームページ（オンライン） / Homepage (On-line)

[← 前に戻る](#)

[回答する](#)

Page Top

※ You can change your registration until the deadline.

※ Please follow the same instructions when you apply for the 2nd screening.

※ Registration for 3rd batch screening is done differently from other batches. You will be informed of the details when the 2nd batch screening results open.

4. 2019年度国際日本学部演習担当教員一覧/List of Seminar lecturer in AY2019

コード番号 Code	氏名 Lecturer	職名 Title	担当科目 Lecture Course	開講言語 Language
01	ヴァシリョウク スヴェトラナ VASSILIOUK Svetlana	准教授 Associate Prof.	国際関係論 International Relations	英語 English
02	大須賀直子 OSUKA Naoko	教授 Prof.	言語と文化 Language and Culture	日本語 Japanese
03	尾関 直子 OZEKI Naoko	教授 Prof.	応用言語学 Applied Linguistics	日本語又は英語 Japanese or English
04	岸 麿貴子 KISHI Makiko	准教授 Associate Prof.	インターネットと社会 Internet and Society	日本語 Japanese
05	金 ゼンマ KIM Jemma	准教授 Associate Prof.	アジア太平洋政治経済論 Asia-Pacific Political Economy	日本語 Japanese
06	小林 明 KOBAYASHI Akira	准教授 Associate Prof.	国際教育交流論 International Education and Exchanges	日本語 Japanese
07	小森 和子 KOMORI Kazuko	准教授 Associate Prof.	日本語教育学 Japanese Language Teaching	日本語 Japanese
08	佐藤 郁 SATO Iku	講師 Senior Assistant Prof.	ツーリズム・マネジメント Tourism Management	日本語 Japanese
09	白戸 伸一 SHIRATO Shinichi	教授 Prof.	日本流通史 History of Japanese Marketing Systems	日本語 Japanese
10	鈴木 賢志 SUZUKI Kenji	教授 Prof.	日本社会システム論 Japanese Social Systems	日本語 Japanese
11	瀬川 裕司 SEGAWA Yuiji	教授 Prof.	映像文化論 Film Studies	日本語 Japanese
12	田中 牧郎 TANAKA Makiro	教授 Prof.	日本語学 Japanese Linguistics	日本語 Japanese
13	旦 敬介 DAN Keisuke	教授 Prof.	ラテンアメリカの歴史と文化 Latin American Studies	日本語又は英語 Japanese or English
14	張 競 CHO Kyo	教授 Prof.	比較文化学 Comparative Culture	日本語 Japanese
15	長尾 進 NAGAO Susumu	教授 Prof.	武道文化論 Cultural Studies in Budo (Japanese Martial Arts)	日本語 Japanese
16	沼田 優子 NUMATA Yuko	特任教授 Prof.(Non-tenured)	経営学 Business Administration	英語 English
17	萩原 健 HAGIWARA Ken	教授 Prof.	舞台芸術論 Performing Arts	日本語又は英語 Japanese or English
18	藤本由香里 FUJIMOTO Yukari	教授 Prof.	漫画文化論 Manga Culture	日本語 Japanese
19	眞嶋 亜有 MAJIMA Ayu	講師 Senior Assistant Prof.	日本表象文化論 Japanese Representational Arts	日本語 Japanese
20	馬 定延 MA Jung-Yeon	特任講師 Assistant Prof.(Non-tenured)	メディア・アート Media Arts	英語 English
21	溝辺 泰雄 MIZOBE Yasuo	教授 Prof.	世界のなかの 아프리카 Africa in the Contemporary World	日本語 Japanese
22	美濃部 仁 MINOBE Hitoshi	教授 Prof.	宗教と哲学 Religion and Philosophy	日本語 Japanese
23	宮本 大人 MIYAMOTO Hirohito	准教授 Associate Prof.	アニメーション文化論 Animation Culture	日本語 Japanese
24	森川嘉一郎 MORIKAWA Kaichiro	准教授 Associate Prof.	日本先端文化論 Otaku Culture	日本語又は英語 Japanese or English
25	師井 勇一 MOROI Yuichi	特任講師 Assistant Prof.(Non-tenured)	平和学 Peace Studies	英語 English
26	山脇 啓造 YAMAWAKI Keizo	教授 Prof.	多文化共生論 Issues in Intercultural Communities	日本語 Japanese
27	欠番	-	-	-
28	渡 浩一 WATARI Koichi	教授 Prof.	日本の文化伝統 Japanese Cultural Traditions	日本語 Japanese
29	ワルド ライアン M. WARD Ryan	講師 Senior Assistant Prof.	比較宗教論 Comparative Religious Studies	日本語又は英語 Japanese or English

* 2018年7月31日現在の一覧であり、担当者は変更となる場合があります。

01 ヴァシリョーク, スヴェトラーナ VASSILIOUK, Svetlana 准教授

1. 演習のテーマ /Theme

“International Relations in Northeast Asia with the focus on Japanese Foreign Policy”

This seminar offers lectures, discussions, and readings reflecting on contemporary international relations in Northeast Asia (NEA), with a special focus on Japan’s foreign policy. Topics covered include: Japan’s participation in the military conflicts of the late 19th-early 20th centuries; Japan’s Pacific War (1937-1945); key issues in Japan’s postwar relations with major powers in the region; and the impact of the declining power of the US in regional and global affairs. In the course of two years, students will participate in field trips, attend public talks, and prepare reports and news analyses pertaining to the topics covered in class.

2. 授業内容 /Activities

(1) 授業の進め方 / Proceeding

<3年次 /3rd Year>: This seminar will begin with an overview of Japan’s history of foreign relations, providing students with the historical frameworks for explaining and understanding Japan’s contemporary international relations in NEA. The seminar lectures, discussions, and readings will focus on a variety of core topics, such as: imperialism in NEA and Japan’s participation in major military conflicts of the 19th-early 20th centuries; Japan’s Pacific War (1937-1945); the core issues in Japan’s relations with key powers in the region; the rise of “the rest” and the emerging new world order.

<4年次/4th Year>: The following topics will be covered: the impact of the declining power of the US in the regional and global perspectives; the origins of Japan’s major territorial disputes in NEA; history of the dispute negotiations and overview of the most feasible approaches to the settlement of Japan’s territorial issues; and the future prospects for Japan’s relations with the key powers in NEA. At the end of the 4th year, students will write and present a research paper (thesis) covering one of Japan’s territorial disputes or any other controversial issue in Japan’s foreign relations in NEA.

(2) ゼミ論(Thesis)の有無: Yes

(3) 評価方法 /Evaluation

3rd year:

News Portfolio 30%; Briefing paper 30%; Summaries 20%; General Class Participation 20%

4th year: Thesis 60%; Presentations 20%; General Class Participation 20%

3. 使用テキスト / Textbook(s)

REQUIRED BOOKS:

(3B), (4A): Fareed Zakaria, “The Post-American World” (Release 2.0 Edition), 2011.

RECOMMENDED BOOKS:

(3A): James L. McClain “Japan: A Modern History,” W.W. Norton & Company: New York, 2002; Jeff Kingston, “Contemporary Japan,” Wiley-Blackwell, 2011.

(4B): Thomas J. Schoenbaum, “Peace in Northeast Asia,” Edward Elgar: Cheltenham, UK, 2008.

In addition, various handouts will be distributed in class as needed.

4. 応募学生に望むこと /Requirements

1). The seminar sessions will be in English only. Students should have adequate English language skills to do well in this course.

2). Students are required to attend seminar sessions regularly. Any student, who is absent FOUR or more times, except absences due to the documented emergencies, will receive a failing grade.

5. 選考方法 /Screening

The students will have to write a short essay in English describing their interest in this seminar.

6. 演習入室までに学習してほしいこと / Required activity that will have been done before the start of the seminar

It is highly desirable that the students have completed basic courses in Political Science and/or International Relations prior to taking this seminar.

7. その他 /Others

Seminar events and additional information will be announced in class.

02 大須賀 直子 教授

1. 演習のテーマ

翻訳を通して考える言語と文化

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

実際に翻訳をおこなうことが中心となります。春学期は、児童文学、ミステリーなどを訳して翻訳技術を磨きます。また、字幕翻訳の基礎を学び、実際に練習します。春学期の終わりには、各自が翻訳したい本または映画を選び、シノプシス（一種の企画書）を作成し、プレゼンテーションをおこなって秋学期に共同で翻訳する作品を選びます。秋学期は、完成度の高さにこだわって、1つの本または映画を完訳します。また、受講者の希望によって、翻訳に関する文献講読をおこない、研究発表をしていただくこともあります。

<4年次>

各自がテーマを決めて翻訳、字幕翻訳、または翻訳に関連する研究をおこない、発表します。

(2) ゼミ論の有無

本または映画の翻訳をおこなうか、または翻訳に関連する研究論文を書きます。

(3) 評価方法

<3年次> 平常点（20%）、発表（30%）、翻訳（50%）でおこなう。

<4年次> 平常点（20%）、発表（20%）、翻訳/論文（60%）でおこなう。

3. 使用テキスト

授業内で相談をして決めます。

4. 応募学生に望むこと

担当である・なしにかかわらず、翻訳の課題は必ずやってくる。課題の締め切りを守る。授業内では積極的に発言すること。無断欠席は厳禁。

5. 選考方法

筆記試験とアンケート。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

演習担当教員の学部科目「言語と文化A・B」をなるべく履修しておくことが望ましい。

7. その他

夏休みに合宿をおこなう予定です。

03 尾関 直子 OZEKI, Naoko 教授

1. 演習のテーマ

第二言語習得と言語教育

第二言語習得と言語教育について勉強します。「日本語は文法を知らなくても話すことができるのに、英語は文法を知っていても話すことができないのはなぜだろう?」「どうして、あの人は語学が得意なのに、私は語学が苦手なんだろう?」「早期英語教育は効果的なのだろうか?」「どのように教えれば、生徒の英語は上達するのだろうか?」「そういう質問に答えてくれるのが第二言語習得理論です。英語に興味がある学生、英語の学習方法や教授法に興味のある学生、英語が好きな学生にとっては楽しい学問です。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

授業はすべて英語です。毎週、教科書の担当部分について、少人数のグループ、またはペアで発表します。発表する内容は、担当部分の要約、その内容に関して調べてきたこと、担当部分に関しての自分たちの意見や考えです。また、内容に関して、ゼミでディスカッションができるトピックを提供することも必要です。発表担当以外の学生は、教科書の内容に関しての意見や考えをジャーナルに書いてくることが毎週の課題となります。

授業の最初に、ジャーナルを交換し、お互いのジャーナルにコメントを書き、その後、発表担当者が発表をし、グループごとにディスカッションをします。授業は、プレゼンテーションやディスカッションが中心となるので英語力のアップも同時に期待できます。また、3年の後期には、自分の研究テーマを決めて、研究計画を立てていきます。

<4年次>

就職活動があるので、自分のペースで研究をすすめ、ゼミ論(卒論)を書きます。また、1か月に1度くらいの割合で卒論について発表します。卒論のテーマは、「第二言語習得」に関するだけでなく、「言語」、「国際」、「コミュニケーション」に関係していることがテーマであれば、かまいません。また、卒論は英語で書いても、日本語で書いてもかまいません。

(2) ゼミ論の有無 有り

(3) 評価方法

<3年次>ディスカッションや授業への参加 50%, プレゼンテーション 30%,
ジャーナル・ライティング 20%

<4年次>プレゼンテーション 30%, ゼミ論(卒論) 70%

3. 使用テキスト

Brown, D. B. (2014). *Principles of language learning and teaching*. White Plains, NY: Pearson.

4. 応募学生に望むこと

ゼミでは、友達と助け合いながら学習します。ただし、ゼミは、勉強する場であるだけでなく、友達と共に人間的にも成長していく場であって欲しいと考えています。従って、ゼミ合宿、国際交流などに積極的に参加したいと考える、やる気がある誠実な学生は大歓迎です。また、卒論、就職、もしくは大学院進学を真剣に考えることが出来る学生を希望します。

5. 選考方法

アンケートと面接(詳細は個別ガイダンスの際に指示します。)

6. 演習入室までに学習してほしいこと

特になし。 It is never too late to learn.

7. その他

ゼミの教科書は、内容も英語もさほど難しくありませんが、英語を常に使うので。ゼミを1年終えたころには、すべての英語の技能(スピーキング, リスニング, ライティング, リーディング)が上達しているはずです。もし、授業で、わからないところがあれば、積極的に質問してください。質問は大歓迎です。夏休みにはゼミ合宿をして、研究成果をグループで発表してもらいます。合宿は3年生、4年生と合同の合宿になります。勉強をしっかりとしながら、楽しいゼミと一緒にしていきましょう!

04 岸 磨貴子 准教授

1. 演習のテーマ

教育工学 (Educational Technology)

本演習では、テクノロジーを活用した「問題解決の学」としての「教育工学 (Educational Technology)」について、その理論と実践について学び、自らが問題解決の主体として実践と研究ができるようになることをめざします。教育というと学校教育をイメージしまいがちですが、学習・発達、協働、知識創出、問題解決は、生涯を通して行う人間の営為です。しかし、私たちは、教師という職につかない限り、これらに関する理論や実践を学ぶことはほとんどありません。加えて、グローバル化・情報化社会においては、越境する学び、異種混交な人との協働、テクノロジーの活用、価値 (情報) 創出、問題解決の力がますます重要になってきます。

本演習では、人が学習・発達の環境 (たとえば「場」「活動」「コミュニティ) をデザインするための理論と実践を学びます (心理学、デザイン論、エスノグラフィーなど)。ゼミ生の研究フィールドは多様です。学校教育、NPO/NGO の活動、オンラインでの協働、海外 (特に途上国)、難民支援など、ゼミ生の関心に基づいて実践および研究活動を行います。

キーワード: 教育工学、メディア表現、環境デザイン、デジタルコンテンツ、学習心理学、問題解決、越境的対話

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3 年次> 3 年次では、ゼミ生は、自分の興味関心を広げ、深めるために様々な教育実践に参加します。ゼミ生全体で「新しい学び」の経験を共有し、それに関する文献について輪読をします。実践 (体験) と理論 (文献) を往復しながら教育工学について理解を深めます。

<4 年次> 4 年次では、ゼミ生は、自分の研究テーマについて研究を進め、ゼミで報告をします。最終的には卒業論文または卒業制作という形で研究成果をまとめます。

(2) 卒業研究

ゼミ生は、4 年次に卒業論文またはメディア制作 (電子書籍、映像、ウェブ、マルチメディアなど制作) のいずれかで研究成果をまとめます。いずれに形態においても、文献調査、データ収集、データ分析 (編集)、まとめ (執筆または制作) を行います。

(3) 評価方法

<3 年次> ゼミ活動を通して得た知見のまとめ (振り返り) と 1 万字論文

<4 年次> 研究成果の報告 (春学期)、卒業論文または卒業制作 (秋学期)

3. 使用テキスト 適宜、指示します。

4. 応募学生に望むこと

教育関係、国際協力 (教育開発、コミュニティ開発、参加型開発、平和構築など)、社会問題 (難民、貧困など) に関心がある人、教師志望の人を歓迎します。ゼミ以外の時間を使いますので、プレイフルに、協働的に、自分のやりたいことに一生懸命に取り組める人を歓迎します。

5. 選考方法

志望動機書と面接によって選考します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

下記のウェブを読んでください (QR コードからも読み込めます)

http://www.meiji.net/international/vol1127_makiko-kishi

7. その他

インターネットと社会 AB をゼミ入室後でよいので履修してください。

ゼミでは、英語または日本語を使います。



05 金 ゼンマ 准教授

1. 演習のテーマ

グローバル化とアジア太平洋地域の政治経済

アジア太平洋地域における政治経済を勉強するゼミです。本ゼミでは、二国間自由貿易協定(FTA)、ASEAN+3、環太平洋経済連携協定(TPP)など重層的に進展するアジア太平洋の地域統合への動向を踏まえ、リージョナリズムの現状と今後の課題について分析する視点を養います。さらにそうした視点を踏まえて、東アジアを含む広義のアジア太平洋地域における国際関係の変化やグローバル化への各国の政策的対応の相違と共通性について、論点の理解を深めることを目的とします。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

毎回、担当者2名が指定文献の担当内容についてレジュメを作成し、発表します。コメンテータ2名は、文献に関連したコメントやディスカッションのための質問を提供します。報告レジュメは、報告の三日前までにはゼミのメーリングリストに送り、報告当日にディスカッションを全員参加で行えるようにします。報告とコメント、ディスカッションの使用言語は、英語でも日本語でもかまいません。

<4年次>

3年次で得た知識を踏まえ、各自の興味のあるテーマについて調査・研究を行い、卒業論文を作成します。二か月に一度の割合で卒論について発表し、ゼミでのフィードバックを通じて論文を修正・発展させていきます。卒論は、英語でも日本語でもかまいません。

(2) ゼミ論の有無

研究発表とゼミでの議論を踏まえて、ゼミ論を作成し提出していただきます。

(3) 評価方法

<3年次> 平常点(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)

<4年次> 平常点(20%)、プレゼンテーション(20%)、論文(60%)

3. 使用テキスト

適宜指示します(英語と日本語の文献)。

4. 応募学生に望むこと

いま、アジア太平洋地域の政治経済において何が問題となっているのか、知的好奇心を持って積極的にゼミに参加できる学生を望みます。

5. 選考方法

小論文(研究テーマ・応募理由)と面接(詳細は個別ガイダンスの際に指示します。)

6. 演習入室までに学習してほしいこと

アジア太平洋地域の政治経済情勢に興味を持ち、日々の国際ニュースに接しておくことを期待します。

7. その他

本ゼミでは、実践的な視点を養うための、フィールドワークや合宿を行う予定です。韓国の高麗大学・延世大学・西江大学との合同ゼミがあるなどイベントが豊富で、頑張れば頑張るほど得るものが大きくなるゼミです。

06 小林 明 准教授

1. 演習のテーマ

国際教育交流の理解と実践

このゼミでは「国際教育交流は国際平和実現の礎」と位置付けて、国際教育の概念を理解した上で、学校教育における海外留学や交流プログラムなど国際教育交流の実態を調査し、国際教育交流の果たす役割や効果を学ぶとともに国家・地域間および文化間の平和的な共存を推進する理想的な国際教育プログラムを模索します。学内の国際化にも積極的に参加します。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

ユネスコの「国際教育の勧告」について学び、日本の取り組みを調べることで国際教育の理念と実際について理解を深めます。特に国内の中高等教育機関における国際教育交流の具体的な取り組み(留学プログラムや活動とその効果)について調査します。

<4年次>

国内外の大学の国際教育交流プログラムについて調査し、理想的な取り組みやその効果について分析します。その結果を踏まえて中高等教育における国際教育交流のあり方を構想します。

(2) ゼミ論の有無

無し(ただしE-book等、何らかの形で成果を発表する。)

(3) 評価方法

<3年次> 平常点(40%)、発表(30%)、レポート(30%)で行う。

<4年次> 平常点(30%)、発表(30%)、レポート(40%)で行う。

3. 使用テキスト

『大学の国際化と日本人学生の国際志向性』

横田雅弘・小林明編 発行：学文社

『海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト』

横田雅弘・太田浩・新見有紀子編 発行：学文社

4. 応募学生に望むこと

国際教育交流および異文化感性の向上に興味を持ち、積極的にゼミに参加できること。

無断欠席、遅刻は厳禁で、海外研修費(約15万)を自力で捻出する気力がある者。

5. 選考方法

筆記試験と面接(詳細は個別ガイダンスの際に指示します。)

6. 演習入室までに学習してほしいこと

学部開設科目の「海外留学入門A」「国際教育交流論A」を履修しておくことが望ましい。

7. その他

夏休み又は春休みに3、4年生合同で3泊4日程度のゼミ合宿研修を行う。場所は研修内容により海外で実施することもある。

07 小森 和子 准教授

1. 演習のテーマ

第二言語としての日本語の語彙習得

日本語では「薬を飲む」と言うのに、中国語では「吃（食べる）药」と言い、英語では「take（とる）medicine」と言います。＜薬を体内に入れる＞という同じ現象を表すのに、使う動詞は言語によって異なることがあります。そこで、本演習では、どのような表現が日本語特有なのか、それはなぜか、について考察します。また、教材と担当者を決め、留学生向けの日本語の模擬授業を行い、実践的にも日本語教育を学びます。

さらに、希望する学生には、私が担当する English Track 留学生向け日本語科目「初級日本語」（水曜2限）で、「ゲームで学ぶ初級漢字」の指導を担当してもらっています。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

春学期は、日本語に特有の表現について、なぜ、日本語ではそのように言うのかについて、他の言語と比較しながら、認知言語学の理論を学びながら、考えていきます。秋学期は、春学期で学んだことを基に、全員でテーマを設定し、留学生を対象に調査を行います。

<4年次>

実践と理論の両立を目指し、春学期は、論文講読と日本語の模擬授業を行います。秋学期も模擬授業は継続し、さらに、それぞれが研究テーマを設定し、論文を執筆します。

(2) ゼミ論の有無

有り

(3) 評価方法

出席と議論への参加（20%）、発表（30%）、レポート（3年次）・論文（4年次）（50%）。

3. 使用テキスト

初山洋介（2009）『日本語表現で学ぶ 入門からの認知言語学』研究社他、授業時に指定。

4. 応募学生に望むこと

留学生に日本語を教えてみたい人、将来日本語教師になりたいと思っている人、海外で日本語教育に携わってみたい人、大学院で専門的に学びたいと思っている人、大歓迎です。

5. 選考方法

筆記試験と面接

6. 演習入室までに学習してほしいこと

ゼミ入室までに学部開設科目の「日本語教育学」はぜひ履修しておいてください。

7. その他

08 佐藤 郁 専任講師

1. 演習のテーマ

世界と日本のツーリズム

本演習の目的は、身近な観光という現象を通じて、世界の中の日本、日本から見た世界について理解を深めることです。同時に、フィールドワークやグループワークを通じて、様々な立場や範囲から物事をみる視点、背景や考えの異なる他者とのコミュニケーションスキル、企画立案やプレゼンテーション能力を養います。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

- 前半は、観光に関わる企業や行政機関と連携して施設見学や座談会等を実施し、観光の役割やターゲットに合わせた観光情報の発信の仕方について学びます。さらに、4～5名のグループ単位で、中野区内でフィールドワークを実施し、地域の観光資源を発掘して、その魅力を訪日外国人観光客に向けて発信してもらいます。
- 後半からは、課題解決型のプロジェクト学習が中心となります。提示された課題に基づき、中野区で訪日外国人観光客を対象にしたデスティネーションプロジェクトの企画・立案をグループに分かれて行います。最後に、観光に関わる企業や行政機関の方々に向けてコンペ形式のプレゼンテーション大会を実施します。グループワークは、観光の「力」を最大限に引き出すための発想やイメージーション、課題のクリエイティブな解決方法という観点を重視します。
- 最終レポートは、自身の参加したグループワークの成果と課題を、各個人で評価したものを提出してもらいます。(グループメンバーや作業に対する評価ではありません。課題を終えて、自分のグループの企画について、まだ議論の余地があると思う部分や、素晴らしいと思う点などを個人で評価してください。詳しくは授業内で説明します。)

<4年次>

観光に関するテーマを各自で設定し、最後にゼミ論をまとめる。全体で構想発表、中間発表および最終発表会を実施します。

(2) ゼミ論の有無

有

(3) 評価方法

3年次：平常点(40%)、グループ発表及び議論への貢献度(30%)、最終レポート(30%)によって総合的に評価する。

4年次：平常点(10%)、発表(30%)、論文(60%)によって総合的に評価する。

3. 使用テキスト

特に指定しない。その都度必要なものを配布する。

4. 応募学生に望むこと

地理の基礎的な知識があることが望ましい。(3年次は特に)グループワークによるプロジェクト型学習が中心となるので、フットワークが軽く、チームでの作業に積極的に取り組める方を歓迎します。また、授業時間外にチームで主体的に活動することも多くなりますので、それを前提に履修するようにしてください。授業時間外で地域視察などを行う場合もあります。何事にも積極的に参加できる方を希望します。

5. 選考方法

筆記試験及び面接。2年次春学期までの成績も参考にする。

(海外留学中の場合は、レポート試験・志望動機書・自己紹介書による選考を行う。

2年次春学期までの成績も参考にする。)

6. 演習入室までに学習してほしいこと

「ツーリズム・マネジメントAB」を履修しておくことが望ましい。

7. その他

受講生の数や要望・理解度を考慮し、内容を変更する場合があります。

09 白戸 伸一 教授

1. 演習のテーマ

流通・マーケティング戦略とまちづくり

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

2つのテーマで共同研究します。第1は日本の流通・マーケティングの特質、強みをケース・スタディと発達史から学びとること、第2は21世紀の課題と言える現代都市の「まちづくり」を流通面から検討することです。日本では、総合商社や「オムニ・チャンネル」を目指す大手小売企業、そして世界ランキング上位にも登場する有力企業がありますが、その特質やマーケティング戦略を検討します。その上で流通と市民生活の主要な場である魅力的でコンパクトなまちづくりについて、様々な事例を通して検討します。

3年次は主に文献や資料、さらには企業訪問等による研修を通じて研究を深め、その過程で各自もしくはグループで興味のある研究テーマを決めて、ケース・スタディ（事例研究）を含む研究に取り組んでもらいます。

<4年次>

国際比較を取り入れながら、個人またはグループごとに研究・調査を継続しつつ、ゼミでの中間報告をおこない、最終的にはゼミ論にまとめてもらいます。

(2) ゼミ論の有無

有り

(3) 評価方法

<3年次>平常点(40%)、発表(30%)、レポート(30%)

<4年次>平常点(25%)、発表(25%)、論文(50%)

3. 使用テキスト

『ケースで学ぶマーケティング [第2版]』井原久光 ミネルヴァ書房

『2020年代の新総合商社論』榎本俊一 中央経済社

『日本の流通・サービス産業 ―歴史と現状―』廣田誠 大阪大学出版会

『地域の再生と流通・まちづくり』日本流通学会監 白桃書房

4. 応募学生に望むこと

自説を論文としてまとめ上げることができた時の達成感をぜひ味わってもらいたい。そして、ゼミという共同研究と青春の重要な出会いの場で、生涯忘れ得ぬ宝物を見つけてほしい。

5. 選考方法

小論文と面接

6. 演習入室までに学習してほしいこと

社会や経済に関する時事問題に対し、事実関係を理解しつつ自分の意見が述べられるよう努力してほしい。

7. その他

全員参加を原則に、ゼミ合宿及び必要に応じて企業訪問や調査をおこないます。

10 鈴木 賢志 教授

1. 演習のテーマ

スウェーデンに発信し、スウェーデンから学ぶ

本演習は、スウェーデンに焦点を当てた「国際日本学」の実践を目的とする。すなわち、①日本に興味を持つスウェーデンの人々とのコミュニケーションを通じて、彼らが日本をどのように認識しており、どのような情報の発信が望まれているのかを理解し体感する。さらに②スウェーデンから日本が何を学べるのか、また日本の文化や社会システムの現状に照らして、実際にどこまで取り入れることができるのか、その可能性や限界について考察する。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

春学期は、スウェーデンについての基本的な知識を吸収しつつ、スウェーデンの人々との交流や大使館でのイベントなどの様々な機会において、スウェーデンの人々が日本や日本人をどのように認識しているのか、どのような情報が求められているのかを、実践を通して学んでいく。秋学期は、春学期の経験を踏まえて、スウェーデン大使館において「日本の若者の意識」を軸にした英語による研究発表を行うべく、その準備を行う。

<4年次>

春学期は、スウェーデンから日本が何を学べるのか、また日本の文化や社会システムの現状に照らして、実際にどこまで取り入れることができるのかについて議論し、それをどのような形で卒業発表に結実させるかについて討議し、計画を策定する。秋学期は、策定した計画に基づき、スウェーデン大使館において、主にスウェーデンに興味を持っている日本人を対象として行われるスウェーデン社会研究所のセミナーとして卒業発表を行うべく、その準備を行う。

なお授業では、スウェーデンと日本の現状や社会システムについての解説や、スウェーデンの人々とのコミュニケーションや研究に役立つよう、初歩的なスウェーデン語の講義を織り交ぜていく予定である。

(2) ゼミ論の有無

上記のゼミ活動を通じて得た知識をもとに論文執筆を希望する者については指導を惜しまないが、執筆を必修とはしない。

(3) 評価方法

各期の発表、レポート、および授業への取り組みを考慮に入れて評価する。

3. 使用テキスト

特に指定しない。

4. 応募学生に望むこと

ゼミの活動は、スウェーデン大使館のイベント参加など様々な広がりをもって行うので、座学に限らず、何事にも積極的に取り組む方の参加を望む。

5. 選考方法

小論文(応募理由)の評価を中心に、2年次春学期までの成績を参考にしつつ選考する。場合によっては面接を実施する。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

鈴木の担当科目を履修している方が望ましい。

7. その他

11 瀬川 裕司 教授

1. 演習のテーマ

高度な批評能力を身につける

本を読んだあと、あるいは映画を観たあとに、「面白かった」「つまらなかった」といったカタコトの〈感想〉ではなく、自分の意見を論理的に展開できる大学生は少ない。〈コメント力〉あるいは〈批評力〉は社会人になってからも重要なものだが、わが国の学校教育では、この能力の養成は軽視されてきた。このゼミでは、小説、演劇、映画、絵画、音楽などあらゆる対象に的確な言葉で批評をおこなえる能力を養うことを目標とする。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

毎回の授業に対してひとつの映画作品、小説などを指定する。参加者は、授業日までにその作品に接し、資料を見るなどして批評文を用意する。授業時には、参加者はたがいの批評を比較して意見を交換し、分析能力の向上をめざす。参加者の希望に応じて、演劇や音楽なども考察の対象とする。映画がテーマとなる場合は、たとえば〈ミュージカル映画〉、〈タランティーノの監督作〉等のテーマを決めて何本かの作品を続けて研究したい。

<4年次>

各参加者が、中心に据えて研究したい映画作家・小説家・ジャンル・アーティスト等のテーマを決めてゼミに臨む。毎週の授業では、ひとりもしくはふたりが自身のテーマに関連する批評文・レポートを提示し、口頭発表をおこなったのち、全員でその内容について意見を交換する。必要な場合には、授業時間中に関連作品をDVD等で鑑賞する。最終的に、そういった発表をまとめるかたちで年度末にゼミ論が提出されることが望ましい。

(2) ゼミ論の有無

参加者は原則として学年末にゼミ論を提出してほしいが、ゼミ論執筆を希望しない場合は、レポート提出、口頭発表等で代用できる。

(3) 評価方法

<3年次> 毎回授業時の批評文および発表で評価する。

<4年次> 毎回授業時の発表(65%)、学期末のレポートもしくはゼミ論(35%)で評価する。

3. 使用テキスト

授業時に指示する。

4. 応募学生に望むこと

映画や文学、演劇など国内外の文化全般に関心があり、文章を書くのが好きで、積極的に意見を述べられる学生、もしくはそのようになりたいと考える学生が望ましい。

5. 選考方法

必要な場合には、アンケートなどを実施する場合もある。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

蓮實重彦(はすみ・しげひこ)氏の映画関係の著作を演習開始前に2冊程度読んでおくことが望ましい。

7. その他

12 田中 牧郎 教授

1. 演習のテーマ

日本語の歴史と現在

日本文化の基本であり、日本社会がよって立っている「日本語」を、歴史的視点を踏まえて研究します。3年次では、どのような歴史を経て現在の日本語の姿になってきたかを研究し、4年次では、現代社会と日本語の関連を研究するとともに、各自の研究を卒業論文にまとめていきます。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

日本語は、原始時代に日本列島に住み着いた人々の話し言葉として始まり、漢文と出会って書き言葉を持ったことで、平安時代までに言語文化を花開かせ、世界に誇る『源氏物語』を生み出しました。明治時代には西洋語の翻訳や、文体改革を経て、近代的な言語に変貌しました。日本語の変遷の具体的過程を、文献調査（古典を読む）、コーパス調査（データベースを調べる）、フィールド調査（話し言葉を聞き取る）の方法論を身に付けながら研究します。これらを通して、日本語の研究方法を身に付けていきます。

<4年次>

現在の日本語を、例えば、作家や政治家の言葉は、どのようにして読み手や聞き手の心に届く（届かない）のか、報道や広報の言葉は、不特定多数の大衆に伝わるように、どのように工夫されている（工夫が足りない）のかなど、社会と日本語の関わりについて具体的な事例を取り上げて調査・分析していきます。また、各自が取り組む個別のテーマを決め、卒業論文にまとめます。

(2) **ゼミ論の有無** 有り。

(3) 評価方法

3年次、4年次とも、ゼミ活動への参加状況とレポートを総合して評価します。

3. 使用テキスト

テキストと参考図書などは、その都度指示します。

4. 応募学生に望むこと

よく調べ、よく考えることを求めます。

5. 選考方法

面接によって選考します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

古典に親しむ、外国語と日本語を比べる、ニュースの言葉に関心を持つ、言葉遣いに敏感になることなどで、日本語研究への動機づけを高めておいてください。

7. その他

夏休みに国内で合宿を行う予定です。大学院生と共同の研究活動も行います。

13 旦 敬介 教授

1. 演習のテーマ

アフロ・ラテンアメリカ文化研究。2019年度はジャマイカ研究。

英語圏アメリカ大陸最大にして最ディープなアフロ世界ジャマイカに深入りする1年(ないし2年)。ルーツ・レゲエ好き、ブラック・ブリテンに関心のある者たちよ集まれ。

英語圏の文学賞としてもっとも評価が高いマン・ブッカー賞を2014年度に受賞したマーロン・ジェイムズMarlon James作『七人殺しの記録』*A Brief History of Seven Killings*を入口にして、ジャマイカの音楽世界、政治世界、アンダーグラウンド世界を読み解く。

この小説は1976年に実際にあったボブ・マーリーの殺人未遂事件を契機にして、ジャマイカの政治とスラム世界との結託と交錯を、無数の登場人物のバトロ語混じりの語りによって描き出した小説。実在のレゲエ・ミュージシャンが多数登場してくる中で、沸騰していく1970年代から90年代のジャマイカ社会が多面的に描き出される。

この作品を読み解きながら、一方で、そこに登場する音楽家たち、政治家たち、ギャング・メンバーたちの周辺について調査を進め、本当のジャマイカに接近を試みてみないか(かなり暴力的であったり、性的であったりする内容を含む)。ラスタファリアンとは何か、マーカス・ガーヴィーとは何者だったか、奴隷制や人種主義が英語圏植民地に残した傷とは。

このゼミは、ラテンアメリカとカリブ海の国と地域に何か世界を変えるヒントがあるのではないかと予感している人たちが、その文学や音楽などの芸術文化、あるいは歴史や社会、生活文化の成り立ちなど、様々な領域について調査研究する場である(このゼミでは「ラテンアメリカ」とは、アメリカ合衆国とカナダ以外の米州全域というとらえ方をしている)。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3 年次> 春学期の前半は受講者それぞれがすでにもっている知識を共有する(教えあう)期間である。後半からはテキストを手分けして読み進める一方、ジャマイカに関する本や音楽、映画などについて、教室内で共有し、それについて調べ、発表し、議論することによって知識を広げ深めていく。日本におけるレゲエ音楽受容の歴史、ジャマイカとの深い関わりの歴史を探りにいくなど、関心に沿って調査主題は多様に展開できる。また、日本における外国文学出版のライブな状況を、この作品の版權をもつ出版社の担当者に来てもらって聞く計画もあり。森を手探りするようにして、ゼミ・メンバーで開拓していきたい。

<4 年次> 各受講者の関心領域について、主題を絞って12月末までにゼミ修了論文を書くことを目標とする。ただし、その他の形式の活動・制作(文学・芸術・社会活動など)をもって代替することも場合によって認める。ラテンアメリカへの旅の企画を立案・実現・報告するという課題もありうる。

(2) ゼミ論の有無 原則としてあり。しかし、他の活動で代替することも認める。前項参照。

(3) 評価方法

<3年次> 授業時間内の活動および調査発表活動(70%)、授業時間外の課題(30%)で評価する。

<4年次> 授業時間内の活動(70%)、学期末(学年末)の課題(30%)。

3. 使用テキスト

Marlon James: *The Brief History of Seven Killings* (2014, Riverhead Books, NY). 必要部分を配布する予定。

4. 応募学生に望むこと ゼミは参加者が形づくるものである。自分の関心のある主題について自発的に調査するのが主眼である。「ラテンアメリカの歴史と文化」あるいは「Latin American Studies」の授業をすでに2セメスター履修していない人は、2019年度中にならず履修すること。参加者にはなるべく在学中にラテンアメリカの国を訪問する機会を作りたい。

5. 選考方法 これまでの経験や関心領域に関する面接と筆記による。

6. 演習入室までに学習してほしいこと 世界の国の名前と位置ぐらいはわかる基礎的な地理の知識がないのは困る。レゲエとは何か、ボブ・マーリーとは誰かぐらいは事前に体験しておく。

7. その他 担当教員はラテンアメリカの現代文学の専門家だが、現在の主な関心は、ラテンアメリカ(とくにブラジル)のアフリカ系文化にある。Come together to read the Jamaican author Marlon James's novel. We shall find out about the post-colonial realities and the musical/cultural/political realities of 1970s-90s Jamaica, where an assassination attempt on the life of Bob Marley took place. English speaking students are welcome.

14 張 競 教授

1. 演習のテーマ

比較文学比較文化特別研究

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

この演習は、将来ゼミ論や卒業発表の作成を視野に入れ、比較文学比較文化に関する問題について研究を行う授業である。文学や文化の受容および変容、文化衝突の問題が主たるテーマだが、ゼミは三つの段階に分けて進める予定である。

まず、前述のテーマと関連する作品を講読し、作品読解や分析、および批評を通して、比較文学比較文化研究とは何かを理解する。

次に、ゼミで講読した作品について、その材源や関連する資料について調査し、その結果をゼミで発表する。

右の作業を通して、作品の理解を深め、問題の検証および資料調査の仕方を身につける。最後に、ゼミ生が自ら課題を見つけ、資料調査などを行った上、その結果をゼミで発表する。それぞれの報告について、全員でディスカッションを行い、そうした議論を踏まえて次の課題を見つける。そうした一連の作業を通して、比較文学比較文化の基礎的な研究に必要な方法を習得する。

スケジュールは基本的にゼミ生と議論の上で決めるが、最初の数回はテーマの設定、文献調査、資料収集、現場調査、データの処理、口頭発表、論文執筆の時期や基礎的な作業の方法および研究の進め方について勉強する。

<4年次>

この演習は3年次の継続で、ゼミ参加者は自分の設定したテーマについて研究を行う授業である。基本的な進め方は3年次と変わらない。ゼミ論を提出する履修生は春学期に中間発表をし、秋学期のはじめには原則としてゼミ論か卒業発表の草稿の提出が求められる。

(2) ゼミ論の有無

ゼミ論の提出が望ましいが、必須条件ではない。

(3) 評価方法

<3年次>平常点50%、発表50%

<4年次>平常点50%、発表および論文50%

3. 使用テキスト

必要なときに随時に指示。

4. 応募学生に望むこと

積極的に授業参加し、3年と4年の合同演習にも参加すること。

5. 選考方法

筆記試験と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと。

特になし。

7. その他

合宿等はゼミ生と相談の上決まる。

15 長尾 進 教授

1. 演習のテーマ

スポーツと現代社会

2020年に、夏季オリンピック・パラリンピックが東京で56年ぶりに開催されます。日本や東京がこの五輪とどう向き合い、レガシーを遺せるかどうかが注目されていますし、そのあり方を考えることは、ゼミとしての大きなテーマです。また、多くのスポーツにおけるビデオ判定方式の導入や、Eスポーツなど、スポーツの在り方そのものが変わりつつあります。そうした時代の変化とスポーツとの関係性について議論を深めることも、ゼミの特徴です。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

学期前半は、長尾からその時々々のスポーツをめぐるトピックを提供します。それをもとに討議し、理解を深めます。中盤は、皆さんが探してきたトピックをもとに討議し、理解を深めます。後半は、各自何か一つのテーマを掘り下げ、資料を集めて分析し、プレゼンテーションをしてもらいます。学期末には、それらをレポートとしてまとめます。3年次・4年次とも基本的な進め方は、上記の通りです。

(2) ゼミ論の有無

いわゆる卒論的なものはありません。各学期末において、期末レポートを提出してもらいます。その時々々のテーマによる学期完結型のレポートでもかまいませんし、4学期継続したテーマでもいいです。

(3) 評価方法

平常点（討議への関心度、意欲）30% プレゼンテーション（資料収集・取材意欲を含む）30% 期末レポート 40%

3. 使用テキスト

テーマに関わりのある資料や書籍、URLなどを、そのつど紹介します。

4. 応募学生に望むこと

プレゼンにしても、レポートにしても、「現場」での取材や一次資料が大きな説得力をもちます。スポーツ場面への実際の取材（アンケート、インタビューほか）など、アクティブな姿勢を望みます。

5. 選考方法

募集定員をめどに、選考します。関心のあるスポーツ関連のテーマと、そのテーマを選んだ理由を記述する欄を含む、エントリーシートを書いてもらいます。基本的には、そのエントリーシートをもとに選考します。必要に応じて面接を行う場合もあります。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

2020五輪、2019年ラグビーW杯など、皆さんがゼミに所属する2年間は、ビッグイベントが続きます。これらのニュースに日ごろから関心をもって接してください。

7. その他

冬季休暇中（12月下旬～1月初旬）にゼミ旅行合宿（1泊2日または2泊3日程度）を行います。研修先は、皆さんと話し合って選定します。

16 沼田 優子 NUMATA, Yuko 特任教授

1. 演習のテーマ Theme

Japanese Business Organizations in the Global Market

This seminar offers a quasi-business experience with advice from business professionals as well as lectures and discussions. Third-year students will set up a virtual student company using an educational program created by one of the world's largest global non-governmental organizations established in 1919. The program has over 451,000 alumni worldwide. Fourth-year students will spend more time in the classroom, where they will link their experiences to academic theories and frameworks.

2. 授業内容 Activities

(1) 授業の進め方 Proceedings

<3年次 Third-Year Students> Students will set up a virtual student company, run a business, and liquidate it at the end of the year. Business practitioners, acting as external board members, will visit frequently to provide advice. At the end of the year, the students will organize the minutes from discussions by department, hold an annual shareholder meeting, and write an annual report before liquidating the virtual company.

<4年次 Fourth-Year Students> Students will choose a topic related to their student company experience, read relevant papers and case studies, and present these in a way that bridges their experience with academic theories and frameworks. Case studies may also be used for class discussions. In addition, several classes may be spent mentoring third-year students regarding the student company.

(2) ゼミ論の有無 Thesis No.

(3) 評価方法 Evaluation <3年次 Third-year students> Class Participation (40%), Minutes (40%), Annual Report (10%), and Peer Evaluation (10%) <4年次 Fourth-year students> Class Participation (40%), Short Essays or Case Studies (30%), Presentation or an Equivalent Task (20%), and Peer Evaluation (10%)

3. 使用テキスト Text Books

To be announced. These will vary depending on the students' functional roles.

4. 応募学生に望むこと Requirements

The seminar sessions will be in English only. All materials, lectures, class discussions, presentations, and writings will be in English. However, Japanese speakers are also welcome, as many stakeholders such as customers are likely to be Japanese. It is up to the students' company policies to address how language barriers will be overcome. Indeed, this is a common challenge for international companies. To make this seminar more manageable for Japanese speakers, I am happy to provide Japanese support outside of the class. Since we will function like a business, we will have to meet frequent deadlines. Inefficient use of time may necessitate staying/working after hours.

5. 選考方法 Screening

If more than 20 students apply, you will need to create an English presentation that describes your business ideas, the functions in which you want to engage, and how you can contribute to the seminar.

6. 演習入室までに学習してほしいこと Academic Requirements for the Seminar

Business Administration A & B or Practicum in Global Japanese Studies C & D are not prerequisites, but most of the content covered in those courses will be applied to the operation of the student business.

7. その他 Others

This syllabus/schedule is subject to slight changes depending on participant demographics, the schedule for non-lecture activities, and ongoing business events. Students may incur small out-of-pocket expenses.

17 萩原 健 Ken Hagiwara 教授

【注意 Notice】基本的に日本語で行いますが、英語の使用も歓迎します。Basically, this seminar will be held in Japanese, but English is highly welcome.

【Special note for German speakers】Während die Diskussionssprachen Japanisch und Englisch sind, ist es auch möglich, Arbeiten auf Deutsch zu schreiben.

1. 演習のテーマ Theme

“Performances” in Daily Life and Art Scenes

“I am sure I gave a good performance during the interview”. - Haven’t you heard such expression? But what is a “performance”? Doesn’t it depend on audiences, situations, countries or cultural contexts, whether a performance is good or bad? On the other hand, “performance” can be a genre of art. After watching the performance, writers report saying for example: “This performance was so bad it can be ignored.” “Performances” in daily life and art scenes - The one in daily life can serve as a reference when thinking about the one in art scenes and vice versa. This is the core concept of this seminar. Each student is expected to research a theme related to the term “performance.”

2. 授業内容 Activities

(1) 授業の進め方 Proceeding

Each student is required to write a statement based on her/his own interest and then write a thesis. The core activities in each session are reporting about working processes and exchanging opinions among the students.

<3年次 3rd Year>

[Spring semester] After some introductory activities in the first sessions, each member introduces a book or an article that interests her/him. Together with this book or article, 10 sources should be listed with comments. Then the students select quotes from the 10 sources (They should be used in the thesis) and write the statement (This will be the conclusion of the thesis). The source list with comments, quotes and the statement will be the term paper (A) which has to be submitted at the end of the semester.

[Fall semester] The members work on the structure of the thesis based on the term paper (A). A table of contents should be written including descriptions on the content of each chapter. After finishing the table of contents, each student starts writing the thesis. In the sessions, each student introduces a part of her/his thesis. Its content and next working steps will be discussed in class. The completed thesis has to be submitted at the end of the semester.

<4年次 4th Year>

Each student revises the submitted thesis by using 10 more sources, or writes a completely new thesis by using 20 sources. The working process is same as that of the third year.

(2) ゼミ論の有無 Thesis

Required

(3) 評価方法 Evaluation

<3rd Year> Contributions made during each session (30%), presentations (30%), thesis (40%)

<4th Year> Spring semester: same as during the 3rd year; Fall semester: Contributions during each session (20%), presentations (20%), thesis (60%)

3. 使用テキスト Textbook

Depending on each student’s research topic, references will be recommended in class.

4. 応募学生に望むこと Requirements

Active participation during class and doing homework are basic requirements. Being absent or being late for class without any prior notification will have an effect on students’ grades.

5. 選考方法 Screening

Submitting a short report (approx. 1000 letters in Japanese or 500 words in English) and taking an interview. The report must be sent by email to hagi@meiji.ac.jp until two days before the day of the interview. The topic for the short report is: The relation between (a) the term “performance”, (b) your current interests and (c) your future vision after graduation. 【注意 Notice】作文を送る際のメールの書かれ方も選考のための材料です。Please note that the style of your email will also be taken into consideration when submitting your report.

6. 演習入室までに学習してほしいこと Required activity that will have been done before the start of the seminar

Please read at least three books related to the topic “performance”. Every time you finish one book, please report about it (author, title, year of publication, publisher, content and your own opinion) by email (hagi@meiji.ac.jp).

7. その他 Others

A three-days-seminar will be held during the summer vacation in one of the seminar houses of Meiji University. Students will also occasionally watch (stage) performances during the semester.

18 藤本 由香里 教授

1. 演習のテーマ

サブカルチャー／ジェンダー／表現／社会

マンガ・アニメ・ゲームなどの日本のサブカルチャーはいったいどんな特性を持ち、世界中でどのような現状にあるのでしょうか？ また、歴史的にはどう発展してきて、それを生かしていくためには、どういうことが必要なのでしょう？ この演習では、「大衆」によって支えられるがゆえに、その意識や社会の変化を反映しやすいサブカルチャーを題材に、その表現のあり方と社会意識や文化との関係を探っていきます。「文化」と「市場」両方に目を向けるところに特色があり、具体的には、日本のサブカルチャーの特性、歴史的な発展過程、海外市場をどう見るか、ジェンダーと表現などについて関連文献を読み、ディスカッションすることでそれぞれのテーマについて考えを深めていきます。その中で4年次の卒論のテーマをそれぞれが見つけ出し、調査→発表→ディスカッション→フィードバックによって、自分なりに何か「見えてくる」ときの喜びに出会ってみたいと思います。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

前期はこれまで、「日本の戦後とサブカルチャー」を縦軸に、「日本のサブカルチャーの特性」と変わりゆく「サブカルチャーと海外市場」、すなわち“クールジャパン再考”を横軸にディスカッションを行ってきました。戦後のアメリカ文化の急速な輸入、コンテンツ市場におけるアメリカの圧倒的優位性、その中での<アジア>諸国との関係、日本のサブカルチャーがアメリカを下敷きにしながら独自の発展をとげていく過程……。今年もその問題意識は継続しますが、同時に、応募者の関心に応じて読む文献やテーマを検討して行きたいと思います。後期は具体的に<仕事>と国際性、あるいは<現代史>について、マンガ・アニメ・小説・ドラマなどのコンテンツをベースに発表するといったことを考えています。

<4年次>

4年次においては卒業論文の準備、執筆がメインになりますが、ゼミ生の興味をにらみながら、文献講読や個人発表、グループ発表なども並行して行っていくつもりです。合宿や課外活動等については3年次のゼミ生や院生と一緒にすることもあります。

(2) ゼミ論の有無

有。2万字以上の卒業論文をまとめ、ゼミ全体の卒論集を制作する予定です。

(3) 評価方法

発表（50%）、ディスカッションへの貢献度（40%）、その他（10%）。

3. 使用テキスト

ジョゼフ・ナイ『ソフトパワー』、東浩紀『動物化するポストモダン』『観光客の哲学』、飯田一史『ウェブ小説の衝撃』、クリス・アンダーソン『フリー』、落合陽一『魔法の世紀』、大塚英志『物語消滅論』、ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』など。

4. 応募学生に望むこと

ゼミは皆さんが作るものです。ディスカッション等、ぜひ積極的な参加を希望します。

5. 選考方法

志望動機書と面接。詳しいことは個別ガイダンスで説明します。

6 ゼミ入室までに学んでほしいこと

『漫画文化論』AB は入室までに受講しておくことが望ましい。必修等でどうしても取れない場合は、入室後すみやかに履修すること。

7 その他

2泊3日程度でゼミ合宿を行います。3年次は京都国際マンガミュージアムの予定です。

19 眞嶋 亜有 Ayu Majima 専任講師

1. 演習のテーマ

「グローバル人材」とは、そして「国際日本」とは何でしょうか？日本のグローバル化を考えることは多角的視点から「日本とはなにか」「日本人とはなにか」を考えることです。本ゼミでは、日本のグローバル化を、家族や人間関係、ジェンダーやアイデンティティ、身体文化や生活文化、日本文化の世界発信や異文化受容のビジネスモデル、また個性や多様性をめぐる様々な社会問題など、身近な切り口から、比較文化的考察を通じて多角的に分析していくことで、グローバル社会を生き抜く知性となる複眼的視座を養っていきます。個と多様性が益々重視されていく現代、また2020年東京オリンピックや超少子高齢化を迎え様々な挑戦が日本に求められている現代、国籍・人種・性差を問わず互いの感性を尊重しながら、私たちが世界市民としてできることとはなにか、日本が世界に貢献しうる可能性とはなにか、そしてその豊かさとは如何なるものかを共に学び、考えていきましょう。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次> 基礎文献講読や、卒論テーマとなりうる各自の関心に基づき発表し議論し合っていくことで、多角的な思考能力とプレゼン能力、そして対話力を鍛えます。

<4年次> 卒論提出に向けて、定期的に発表し、皆で議論し、完成度を高めていきます。

(2) **ゼミ論の有無** あり（卒業課題として形式に希望等ある場合は事前相談のうえ検討）

(3) 評価方法

<3年次> 出席（30%）、議論含むゼミ貢献度（30%）、発表と学期末エッセイ（40%）

<4年次> 出席（30%就活に応じ相談）、議論含むゼミ貢献度（30%）、卒論と発表（40%）

3. 使用テキスト（あくまで参考）

眞嶋亜有『「肌色」の憂鬱—近代日本の人種体験』（中公叢書、2014年）

眞嶋亜有「水虫—近現代日本の栄光とその痕跡」園田英弘編『逆欠如の日本生活文化—日本にあるものは世界にあるか』（思文閣出版、2005年）ほか、そのつど指示します。

4. 応募学生に望むこと

私たちは様々な人々との交流や対話を通じて、自分と社会と世界を知る機会を得ています。よって知的好奇心に溢れ、人の意見とその多様性を尊重したうえで、自分の意見を共有し、主体性をもって皆と学び合う意志のある学生を希望します。さらに本ゼミでは、他学部との合同ゼミや発表会、また国内外で活躍するゲストを複数お招きするほか、各種ゼミイベントも予定しますので、礼節と協調性をもって人と接することができる学生を望みます。

5. 選考方法 作文等と2年次春学期までの成績と面接：詳細説明と資料配布のため個別ガイダンスには必ず出席して下さい（留学中の入室希望者には、個別ガイダンスでの配布資料を送付しますのでメール下さい。また留学中の入室希望者の面接は動画通話で行うので最初に事前連絡下さい）※作文等のメ切りは入室試験日（面接）から約一週間前の予定です。

6. 演習入室までに学習してほしいこと 日々の生活で何気なく抱く問いや関心は将来の重要な道標になるので、その感性を大切に日頃から多くの良書を読んで下さい。また下記リンクにあるエッセイは必ず読んでおいてください（大学ホームページ内の教員ページ内）。

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~majima/170315ryoomoi.pdf>

7. その他 「日本表象文化論 AB」を履修しておくことが望ましいです。合格発表以降、ゼミイベント案内や説明会等を設けますので合格者は発表された時点でメールをして下さい。

20 馬 定延 MA, Jung-Yeon 特任講師

1. 演習のテーマ Theme

Japanese Arts in Global Perspective

2. 授業内容 Activities

(1) 授業の進め方 Proceedings

<3rd Year> and <4th Year>

This seminar aims to publish a booklet titled <*Japanese Arts in Global Perspective*> each year. Students are expected to survey Japanese artists or non-Japanese artists based in Japan, including musicians, designers, curators, gallerists and other professionals, active in global art scenes and make presentations on him/her/them. At the end of the spring semester, we will discuss a table of contents and contact those artists for an interview, which is one of important research methodologies in the arts. If they let us interview them in person or by email, we will make a list of questions and arrange interview schedules. Based on our collaborative research and interviews, we will transcript the record tapes, edit, design and finally publish a booklet in the fall semester. Since the booklet is to be bilingual (EN/JP), students who are more fluent in Japanese language than English are highly welcomed. Also, this seminar is open to students studying abroad as they can contribute to the booklet by surveying local reference and/or interviewing foreign professionals on the theme. They might be asked to participate editorial meetings via online.

(2) ゼミ論の有無 Thesis

Not required.

(3) 評価方法 Evaluation

<3rd Year> and <4th Year>

Class participation (40%), Presentation (30%), Booklet (30%)

3. 使用テキスト Textbook

To be announced.

4. 応募学生に望むこと Requirements

Please try to be punctual. If you miss the class for more than 3 times in each semester without special reasons, you may not get the credits.

5. 選考方法 Screening

A short essay introducing themselves (A4 1 page, English or Japanese) and an interview. The essay must be sent by an email with a title of student number to majungyeon@meiji.ac.jp until 3 days before the day of the interview.

6. 演習入室までに学習してほしいこと Required activities before the start of the seminar

Please find an artist whom you want to meet in person and think about the reason.

7. その他 Others

Some interviewees might be invited to deliver guest lectures in Liberal Arts Studies A/B (Friday, 3rd period) and Media Arts A/B (English: Wednesday, 4th period, Japanese: Friday, 2nd period) .

21 溝辺 泰雄 教授

1. 演習のテーマ

国内外の「旅」を通して、世界と日本を理解することを目指します。演習の参加者が「サハラ以南アフリカ」を含む世界各地へそれぞれ個別に赴き、そこで体験した内容を、プレゼンテーションやディスカッションなどを通して互いに交換しあうだけでなく、明大祭等のイベントでの報告や旅行記の執筆・出版などを通して、広く一般の方々とも共有する機会も設けます。また、自分たちの「旅」だけでなく、これまでに世界中で出版されてきた「サハラ以南アフリカ」に関するさまざまな旅行記を読み、異文化を体験・理解することの面白さだけでなく、そこで生じる誤解や偏見などの問題点についても深く考えていく予定です。

2. 演習内容

(1) 演習の進め方

11月の成果報告と2月初旬の旅行記の出版に向けて、年度の始めにテーマや日程を決め、それに向けて皆で役割分担をしながら活動を進めます。2018年度の8/9期生の活動は次のリンクから確認できます：https://www.instagram.com/meiji_africa_seminar/

*1年間の主な活動は以下のとおりです：

- 料理会(4月と12月頃)：自分たちでテーマを決め、料理でアフリカを旅します
- 学外実習(6~7月頃もしくは12月頃)：個別もしくは小グループ別に、異なるルートで最終目的地を目指す旅をおこない、最後に皆で集合してそれぞれの旅の経験を共有します。その上で、地産地消をテーマに、現地で食材を集めて料理を作ります(これまでの最終目的地は、京都、熊本、石垣島、瀬戸内しまなみ海道(今治市)などでした)
- 明大祭などへの出展(11月初旬)：教室展示などの形で研究や活動の成果を発表します
- 研究活動発表会(1月か2月)：アフリカ料理店で1年間の活動報告会をおこないます
- 旅行記の作成と出版(4月~2月)：「旅」を通して得た学びを1冊の冊子にまとめます

なお、開発学や政治学、歴史学などの視点から「サハラ以南アフリカ」が抱える諸問題について本格的に学術研究をされたい方のために、**任意参加の<論文ゼミ(アフリカ研究会)>**も設けています(この論文ゼミへの参加は**全員必須ではありません**)。きちんとした学術論文作成に向けて、個別研究従事する学生たちと教員の間で綿密に議論と重ねて考察力・分析力を養っていきます。

(2) 卒業研究

希望者のみ：芸術活動やボランティア活動など論文以外の形式での卒業研究でも構いません。これまでは、アフリカ滞在の写真集の作成や創作衣装の制作と発表会、バンドを組んでのオリジナル楽曲の発表などの形式で卒業研究をおこなったメンバーもいます。卒業論文を執筆する場合は、通常の演習とは別に設ける「**論文ゼミ(アフリカ研究会)**」において、研究課題の設定から調査・研究、論文の作成まで時間をかけて丁寧に作業を進めていきます。研究のテーマは「サハラ以南アフリカ」に関する内容であれば、衣食住から歴史文化、政治経済など自分の関心に応じて設定することが可能です。過去の卒業研究のテーマについては次のリンクから確認できます：<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~mwizobe/publication.html>

(3) 評価方法

演習活動への積極性に基づき評価します。

3. 使用テキスト

入室決定後にお伝えします。

4. 応募学生に望むこと

参加の条件は、国内外を問わず「旅」への強い関心と世界のさまざまな課題を探求し、学ぶ意欲の有無です。また、可能であれば、個人旅行(もしくは留学・スタディーツアー・インターンシップ)などの機会を利用してサハラ以南アフリカでの生活を経験してもらいたいと考えています(ただし、**必須課題ではありません**)。これまでにおよそ30名の学生が、ウガンダ、ルワンダ、ケニア、タンザニア、南アフリカ、ガーナ、セネガル、ベナン、エチオピア、スーダン、レソト、ナイジェリア、ボツワナ、ジンバブウェなどの国々を訪れています。

5. 選考方法

書類審査と面接で選抜します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

アフリカにはこだわらず、まずは自分の関心のあることをとことん勉強しておいてください。

22 美濃部 仁 教授

1. 演習のテーマ

哲学。(このゼミは、参加者がそれぞれ自分の関心にしたいがい、あるいは自分の関心をさぐりつつ、自分を取りまく世界や自分自身の中に問題とすべきことを見出し、それをその根源にまで立ち戻って明らかにする——それが哲学ということですが——ということを中心におこなわれます。その準備として全員で一冊の本を読む、というようなこともしています。どのような問題にどのように取り組むかは各人の自由に任せられていますが、私がこれまで主に勉強してきたのは、哲学、宗教学、倫理学等ですので、専門家として助言ができる領域はそのあたりに限られています。)

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

この授業は、参加者の哲学的関心に沿う形で進めます。ですから、予め「進め方」を細かく決めてはいませんが、ほぼ次のようなことを考えています。

<3年次>

春学期のゼミの進め方については、最初の回に皆で相談して決めます。皆で少し難しい本を一冊読むというやり方もありますし、毎回参加者全員が、その週に本を読むなどして気づいたこと、考えたことを発表し、それについて意見交換をするというやり方もあります。夏休みまでに、自分の勉強のテーマを見つけることを目指します。

秋学期には、自分の考えを組み立て、少しまとまった発表をする機会を設ける予定です。

<4年次>

論文の構成を考えたり、細部について議論したりしながら、勉強の成果をまとめるような形で授業を進める予定です。

(2) ゼミ論の有無

有り。

(3) 評価方法

<3年次> 授業での発表・発言によって評価します。

<4年次> 授業での発表・発言と論文によって評価します。

3. 使用テキスト

こちらから予め指定するものではありません。

4. 応募学生に望むこと

自分自身で問題を見出し、自分自身で考えるようにしてください。

できるだけ二つ以上の外国語に親しんでほしいと思っています。

5. 選考方法

面接。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

できれば私が担当している講義「宗教と哲学」を履修しておいてください。

7. その他

とくにありません。

23 宮本 大人 准教授

1. 演習のテーマ

「メディアと大衆文化／サブカルチャー」

大衆文化（マス・カルチャー／ポピュラー・カルチャー）やサブカルチャーの領域の様々な問題を、そのメディアとの関わりにおいて考える。マンガ、アニメ、テレビ番組、広告、お笑い、ポピュラー音楽などの表現ジャンルに限らず、ファミリーレストランやコンビニなどの大衆的な生活・消費文化、さらにはオリンピックやプロスポーツの大会などの、いわゆるメディア・イベントも視野に入れる。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

3～5名のグループで、フィールドワークや文献購読など、共通の課題に取り組むグループ発表や、受講者それぞれの関心に即した個人発表を中心とする。これを通じて、発表を準備するための参考文献・資料の探し方や分析の方法論を学び、多少難解な学術論文も読みこなせる読解力、効果的なプレゼンテーションの技法、6000字から10000字程度のある程度まとまった分量の論文の作成能力、活発なディスカッションを行うコミュニケーション能力などを、実践的に培っていく。夏休みに3泊4日のゼミ旅行（参加必須、関西方面の予定）を行う。

<4年次>

3年次の終わりまでに卒業論文のテーマを設定し、4年次においてはその準備、執筆を進めていく。もちろん、グループ発表、個人発表、文献講読等、ゼミ全体での活動は3年次同様、継続する。詳しいスケジュールは当該年度の初めまでに決める。夏休みに2泊3日の卒論合宿を行う。課外活動等については3年次のゼミ生と一緒にを行う。

(2) ゼミ論の有無

有り。20000字以上の卒業論文をまとめ、ゼミ全体の卒論集を制作し、学外でも販売する。

(3) 評価方法

発表（30%）、ディスカッションへの貢献度（30%）、期末の課題（30%）、平常点（10%）。

3. 使用テキスト

そのつど指示します。

4. 応募学生に望むこと

ゼミは、部活のようなものです。担当教員はコーチに過ぎず、実際にplayするのはみなさん自身です。このゼミがみなさんにとって充実したものになるためには、みなさん自身の積極的な参加が必要です。

幅広い題材を対象にしてよいゼミですので、集まる人の趣味やライフスタイルも様々だと思います。したがって、「自分と違うタイプの人」と付き合う意欲を持っている人を求めます。いわゆる「社交的な」人である必要はありません。人とのコミュニケーションが苦手でも、とにかく自分の殻に閉じこもらない意欲と努力を見せてほしいということです。

5. 選考方法

事前提出の課題と面接。詳しいことは個別ガイダンスで説明するので必ず出席すること。個別ガイダンスに出席していない場合は選考を受けられない。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

特になし。

7. その他

24 森川 嘉一郎 准教授

1. 演習のテーマ

マンガ・アニメ・ゲーム／デザイン／都市

マンガ・アニメ・ゲームおよびそれらに近接するポップカルチャー、デザイン、そして現代都市に関するさまざまな調査・研究を行う。自分で創作的な「作品」を制作し、その公表や流通を成果とするような研究も受け入れる。これまで、マンガ同人誌、ショートアニメ、ゲーム、音楽 CD、スマートフォンのアプリ、同人グッズなどの制作・頒布、さらには展覧会やイベントの企画・実施など、さまざまなことに取り組む学生がいた。また、英語による発表や論文、作品制作も可とする。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

春学期は各々の関心領域に沿って、基礎的な文献の洗い出しや、さまざまな調査法の試行を行い、発表とディスカッションを繰り返しながらテーマ設定や資料の採取源、達成目標を明確にした研究計画を作り上げる。秋学期はフィールドワークや取材に重心を移す。各期末には、経過を冊子状の提出物にまとめる。就職を希望する業種によっては、就職活動のポートフォリオの一部となるように作成してもよい。

<4年次>

3年次にまとめた成果と経験を下敷きにしなが、研究計画を再構築し、研究の範囲に歴史的・社会的な奥行きを与え、ゼミ以外の場でも読まれるに足るような「本」にする。併行して、関連分野の古典的な書物の読書体験を積むための読書会を行っていく。

(2) ゼミ論の有無

有り

各々の研究を自分の実績として、将来的な自己プレゼンテーションの材料として活用しやすいように、研究の成果を各期末にそれぞれ1冊の本に仕上げる（創作的な「作品」を制作する場合はそれに合った形態でもよい）。

(3) 評価方法

発表（40%）、提出物（40%）、平常点（20%）。

3. 使用テキスト

各々のテーマに沿って適宜指示する。

4. 応募学生に望むこと

ゼミのホームページ (<http://edu.a.la9.jp/>) を見ておくこと。研究したい事柄が、応募の時点である程度思い描けていることが望ましい（後から変更してもよい）。

5. 選考方法

作文と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示する。留学中の場合は別途案内する）。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

ゼミで研究してみたいと考えているトピックについて、試しに関連する文献を探し、読んでみることを望ましい。作品を作りたいと考えている人は、試作をはじめてほしい。

7. その他

フィールドワークや取材を体験するための校外実習を適宜開催することがある。

1. 演習のテーマ Theme

This seminar invites students who wish to research Japanese pop-culture, especially *manga*, *anime* and games, as well as those who are interested in urbanism and design. Studies focusing on particular authors, genres, fan-groups, communities or places, together with their interrelations, are welcome.

Studies on *manga*, *anime* or games are relatively new to academia. Students are encouraged to devise creative methods to accomplish fruitful research.

The seminar also offers an option to let the students produce artistic works instead of research papers, on the condition that the works are published and distributed in public venues. There have been members who took up making *manga* fanzines to be distributed at the Comic Market, executing exhibitions, creating short films, and making smartphone apps.

2. 授業内容 Activities

(1) 授業の進め方 Proceeding

<3年次 3rd Year>

In the first semester, students are to concentrate on determining their interests and pursuits, together with suitable research methods. Digging and mining referential materials are also essential. Every week, the students shall present their progress, followed by discussion. In the second semester, more time shall be devoted to the execution of individual research, whether it be fieldwork, interviews, or experimentation. At the end of each semester, the students are to compile their progress into booklet-form or otherwise.

<4年次 4th Year>

Further research shall be conducted, either by extending one's previous year's project, or by starting a project totally anew. Adding historical and international perspectives are encouraged, as well as the pursuit of a well-designed book-form presentation.

(2) ゼミ論の有無 Thesis

Students are to present their progress in booklet-form at the end of each semester. Students who choose to produce artistic works may design their presentation otherwise, depending on their medium.

(3) 評価方法 Evaluation

Weekly presentation (40%)、Semesterly presentation (40%)、Attitude (20%)

3. 使用テキスト Textbook

Individually advised.

4. 応募学生に望むこと Requirements

Refer to the seminar website: <http://edu.a.la9.jp/>

It is preferable that the student holds ideas as to what he/she wants to study, prior to applying to the seminar.

5. 選考方法 Screening

Essay and interview.

6. 演習入室までに学習してほしいこと Required activity that will have been done before the start of the seminar

Hunt for books related to the topics you plan to pursue in the seminar. If you are interested in producing artistic works, give it a try right away.

7. その他 Others

The seminar may hold excursions to experience fieldwork.

25 師井 勇一 MOROI, Yuichi 特任講師

1. 演習のテーマ Theme

Engaging in Peace and Social Justice in—and from—Tokyo

Issues of peace and social justice are intimately connected, for what kind of peace would it be if it does not include social justice? (“Negative peace,” as Martin Luther King, Jr. says.) The aim of this seminar is to deepen your understanding of issues of peace and justice today by engaging in them. The engagement involves practice on the field, research in the library, and discussion in class. By participating in activities of a local NGO or civic organization (or creating your own), multinational citizens *together* can help create and promote peace and justice in Tokyo—and from Tokyo. Think globally, act locally, and learn broadly.

2. 授業内容 Activities

(1) 授業の進め方 Proceeding

Each classroom session will be a time for discussion—that is, you will report weekly progress of your own project outside the classroom and get a feedback from your peers and the instructor. Extra-curricular activities besides the regular session will be involved; it’s necessary to talk in person, observe directly, participate and engage in a local NGO or civic organization of your choice.

<3年次 3rd Year>

Learning in an organization outside campus; a weekly oral report of your findings; and a presentation and a term paper each semester (mostly engaging “in” Tokyo).

<4年次 4th Year>

While learning with a local organization in spring, will do fieldwork overseas in summer to apply and test your knowledge and skill (engaging “from” Tokyo). In fall, you will spend more time on writing a thesis.

(2) ゼミ論の有無 Thesis

A graduation thesis is required.

(3) 評価方法 Evaluation

3rd Year: Participation 20%; Presentations 30%; Papers 50%

4th Year: Presentations 30%; Thesis 70%

3. 使用テキスト Textbook

Relevant literature will be introduced in class.

4. 応募学生に望むこと To Prospective Students

Any students—on English Track or not, international or Japanese—who are interested in issues of peace and social justice are welcome. You are expected to take an initiative on your own independent study. This seminar will use English as an “official” language.

5. 選考方法 Screening

There will be an essay and an interview.

6. 演習入室までに学習してほしいこと Preparations

It would be nice to have taken one (or more?) of the following courses: Peace Studies, Sociology A or B, or Liberal Arts Seminar (Peace in Action)—in English or in Japanese.

7. その他 Others

There will be a field trip to Okinawa in early spring and another trip overseas—to increase our understanding of war-time history in Asia—in summer (this is different from the “Engaging fieldwork” in senior; it could be called a “field trip for historical understanding” 「歴史認識の旅」). Other events and trips will be planned and organized in class.

26 山脇 啓造 教授

1. 演習のテーマ

多文化共生のまちづくり

グローバル化や少子高齢化が進展する中、日本を含む先進諸国にとって、国籍や民族などの異なる人々が共に生きる多文化共生社会の形成は喫緊の課題といえます。多文化共生の意義を学び、ローカルな課題に取り組みながら、地球時代に生きるためのグローバルな素養を身につけます。具体的には、2020年の東京五輪を控え、多文化共生への関心を高める東京都や中野区などで、行政や企業、NPOなどと連携して、多文化共生をテーマにした調査研究やイベントを実施します。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次> 最初の1カ月に、多文化共生に関する文献を集中的に読みます。その後、東京都や中野区などと連携して、多文化共生をテーマにした調査研究やイベントを実施します。

<4年次> 多文化共生をテーマにした調査研究やイベントを実施します。

(2) ゼミ論の有無

任意（書く場合は8000字程度）。

(3) 評価方法

調査研究やイベントの企画運営など、ゼミ活動への貢献を総合的に評価。（3、4年共通）

3. 使用テキスト

テキストは特にありません。英語の文献も使います。

4. 応募学生に望むこと

①討論：毎回のゼミで積極的に発言できる人。②行動：授業時間外にも、自発的にまち歩きをするなど、フットワークの軽い人。③共生：様々な文化背景を持った人。外国人留学生（ET生を含む）の参加を歓迎します。なお、毎回の出席が原則として求められます。授業時間外にイベントを実施する場合がありますが、サークルなどを理由とした欠席は原則として認めません。

5. 選考方法

志望理由書（以下のサイトからダウンロードし、必ず面接日の3日前までに提出してください：<http://intercultural.c.ooco.jp/index.php/vision/seminar>）と面接。選考のポイントは、問題意識、論理的思考力、コミュニケーション力、勤勉性、協調性、学業成績、英語力です。（留学中の学生も原則としてスカイプで面接します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと

学部設置科目の「多文化共生論」履修者を優先します。

7. その他

入室希望者は、必ず演習案内ビデオに目を通し、個別ガイダンスに参加してください。3年次の4月下旬に国内合宿、8月下旬に海外合宿を行う予定です。イベントは、3年と4年が合同で行います。その準備のため、ゼミの時間が2コマ連続となる場合があります。

28 渡 浩一 教授

1. 演習のテーマ

「ニッポンの歴史と文化」をテーマとします。

日本の歴史と文化を国際日本学的な視野から見つめ直し、日本・日本人・日本文化について考えてみたいと思います。

ちなみに、渡の主な関心研究領域は、日本人の信仰と文化、外国人の見た日本・日本人、外来文化の日本の変容、日欧文化交流史などで、時代的には中世～近代（明治）と広く関心があります。研究のキーワードは江戸文化・日本人論・日本文化論・死生観・冥界観・日本仏教・家制度・唱導・絵解き・地蔵・地獄・子ども・南蛮文化・キリシタン・イソップ寓話・阿蘭陀人・和食などです。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

春学期はテキストを議論しながら輪読していきます。必要に応じて、議論を踏まえた発表・討論も随時行います。秋学期はそれを踏まえ、学生と相談しながら進め方を決めたいと思います。

<4年次>

春学期は、ゼミ論の構想を練り上げ、その執筆準備をしていってもらいます。秋学期は、ゼミ論の執筆とその中間報告をしてもらい、1月に提出してもらいます。

(2) ゼミ論の有無

20,000字程度の論文を提出してもらいたいと考えています。

(3) 評価方法

- | | | |
|----------|-----------------|---------------|
| <3年次> | テキスト読解・発表 (50%) | 発言回数・内容 (50%) |
| <4年次春学期> | テキスト読解・発表 (50%) | 発言回数・内容 (50%) |
| <4年次秋学期> | 論文 (80%) | 発言回数・内容 (20%) |

3. 使用テキスト

ニッポンの歴史と文化について考えるのに有用と思われる文献を学生と相談してテキストとして選びたいと思います。

4. 応募学生に望むこと

「自ら調べ、自ら学ぶ」という姿勢で研究に取り組んでほしいと思います。

5. 選考方法

面接によります。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

基本的な日本史の知識は身につけておいてほしいと思います。

7. その他

ゼミ生は3年生4名、4年生0名です。これまで応募者無し、応募者1名のみということは何度かありました。一人になっても構わないという人は応募してください。

29 ワルド ライアン 専任講師

※この演習は、学生の希望があれば英語でも指導します。

1. 演習のテーマ

「死」の日本宗教史

本ゼミの目的は、多角的な（歴史学的、人類学的、美術学的、宗教学的な）視点を用いて、古代から現代に渡る、日本の宗教史における「死」の意味合いとその歴史の変遷を共に考えることにある。また、日本に限定することなく、なるべく洋の東西（東アジア、インド、中東、ヨーロッパ、など）の宗教史についても考察範囲とし、より比較的な検討を行うように努めていきたい。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

進行形式としては、日本の宗教史と「死」の基礎知識を学びつつ、事前に学生諸君に読んでおいてもらうべき学術論文を担当学生に簡単な要約をしてもらった上、ディスカッションをする。

<4年次>

同上

(2) ゼミ論の有無

有り

(3) 評価方法

<3年次> 平常点（40%）、発表（30%）、レポート（30%）で行う。

<4年次> 平常点（20%）、発表（20%）、論文（60%）で行う。

3. 使用テキスト

プリントを配布する。

4. 応募学生に望むこと

積極的にゼミに参加する学生を望みます。

5. 選考方法

面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと

特になし。

7. その他

ゼミ合宿（場所検討中）を行う予定です。

29 WARD, Ryan Senior Assistant Professor

1. 演習のテーマ Theme

This seminar is intended for students who are interested in religious studies, mental health care, and questions concerning life and death. The seminar is primarily run by the students themselves: each week an individual student makes a 30-40 minute presentation which is followed by Q&A. The professor does show up, unfortunately, and also participates.

In past seminars students have dealt with topics concerning as Japanese religion, psychiatry, bioethics, religion and art, and cross-cultural comparisons of life and death.

2. 授業内容 Activities

(1) 授業の進め方 Proceeding

<3年次 3rd Year>

The seminar is primarily run by the students themselves: each week an individual student makes a 30-40 minute presentation which is followed by Q&A. The professor does show up, unfortunately, and also participates.

<4年次 4th Year>

Same as above.

(2) ゼミ論の有無 Thesis

Yes

(3) 評価方法 Evaluation

3rd Year: Attendance (40%), Presentation(30%),Report(30%)

4th Year: Attendance (20%), Presentation(20%),Thesis(60%)

3. 使用テキスト Textbook

Various handouts will be distributed in class as needed.

4. 応募学生に望むこと Requirements

As the topics we deal with are of a highly serious nature, only highly serious students are welcome. Expect to do a lot of work.

5. 選考方法 Screening

Interview will be prepared.

6. 演習入室までに学習してほしいこと Required activity that will have been done before the start of the seminar
None.

7. その他 Others

Seminar events will be announced.

2019 年度 国際日本学部演習案内

2018 年 10 月 1 日

編集・発行

印刷・発行

明治大学国際日本学部

東京都中野区中野 4-21-1